

「学力向上実行プラン」

- 主体的に学習する力の基になる基礎的・基本的な学力の定着を目指す実践
- めあての明確化や学習の振り返りなどによる、学習意欲・学力向上を目指す授業の実践
- 読書習慣の定着を図る取り組みの充実

| | | |
|---------|----------------------------------|----------------------------------|
| 学力向上推進員 | 委員 | |
| | 校長 特別支援学級主任 1学年主任 2学年主任 | 3学年主任 4学年主任 5学年主任 6学年主任 |



○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、毎学期末に評価テストを行う等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(めざす子どもの姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|--|---------|----------|-------------|
| ○与えられた課題には真面目に取り組むことができ、基礎的・基本的な知識・技能が身につけてきた。 ●習熟度が上がってはいるが、時間が経つと忘れてしまい定着しきれていないことや習得した知識や技能を次の学習や生活に関連付ける力に課題がある。 | ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 四則計算の技能(低90% 中高80%) 漢字の習得率(全学年85%) ・学習の過程を通して習得した知識・技能が、既習の知識・技能と関連付けられ、他の学習や生活の場に応用することができる。 | ・朝のドリル(漢字・計算)を継続し、評価テストを実施する。 ・日記や新聞、作文など、書く活動の充実を図る。 ・興味をもって学習に取り組み、深い学びにつながるように、発問を工夫する。 | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(めざす子どもの姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|---|---------|----------|-------------|
| ○友達の意見をしっかりと聞き、自分の考えを相手に伝えるように発表できる児童が増えてきた。 ●知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、様々な情報から考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたりすることなどに課題がある。 | ・既習の知識・技能を活用して粘り強く学習課題に取り組むことができる。 ・課題に対して、既習の知識・技能を活用し、話し合い活動等を通して解決方法を考え、考え方や解決方法を適切に表現することができる。 | ・問題文の意図、グラフ等が示す意味などを正確に読み取らせるため、アンダーラインを入れさせる。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・板書の構造化 ・タブレットやプリントで発展学習をさせる。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(めざす子どもの姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|--|---------|----------|-------------|
| ○各授業に一生懸命取り組み、家庭学習や読書にも主体的に取り組むことができる児童が増えてきた。 ●自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することに課題がある。 ●読書習慣が、十分に身につけていない。 | ・各教科の学習や家庭学習に主体的に取り組むことができる。 (毎日〈10分×学年〉以上) ・粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしていたりできる。 ・読書習慣を身につけることができる。 (月目標冊数：高3冊、中5冊、低10冊) | ・課題意識や達成感・次の問題意識をもたせるために、授業のめあての明確化や、学習後の振り返りを計画的に行う。 ・『自主学習の手引き』を活用する。 ・家庭学習の状況を確認し、学年通信やホームページ等を活用して家庭にも発信することで、学習習慣の定着を図る。 ・朝の読書タイムや週末読書、親子読書の充実を図る。 | | | |

令和4年度学力向上ロードマップ



